これからの時代に求められる
資質・能力を育むための
カリキュラム・マネジメントの手引き

令和元年度・令和２年度　文部科学省委託事業

令和３年３月

鹿児島県教育委員会

目　次

刊行に当たって

1　カリキュラム・マネジメントとは　・・Ｐ１

2　グランドデザインについて　・・Ｐ２

3　実践校の取組と手引きのポイントについて　・・Ｐ３

4　実践報告

⑴　鹿児島県立蒲生高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ４

テーマ	学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究 ※　グランドデザインの掲載はＰ７～Ｐ９

⑵　鹿児島県立大口高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ18

テーマ	学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究 ※　グランドデザインの掲載はＰ19

⑶　鹿児島県立屋久島高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ32

テーマ	現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究 ※　グランドデザインの掲載はＰ40～Ｐ41

※　実践校の先生方のコメント紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ31

※　本課がカリキュラム・マネジメントに関して行った過去の研修の紹介・・Ｐ31

刊行に当たって

新学習指導要領においては，これからの時代における様々な社会的変化を乗り越え，豊かな人生を拓き，持続可能な未来の創り手となるために必要な資質・能力を児童生徒一人一人に身に付けさせることができるよう教育を行うことを求められています。また，各学校においては法令及び学習指導要領に従いつつ，人的又は物的な資源を活用しながら児童生徒，学校，地域の実態等に応じた教育課程を編成・実施し，その取組状況を評価し改善につなげていくことを通して，組織的かつ計画的に自校の教育活動の質の向上を図っていく，カリキュラム・マネジメントが，これまで以上に求められています。

このような中，県教委では，昨年度から文部科学省の「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」事業の実践地域として委託を受けて，県立高校３校を実践校に指定し，文部科学省が設定した各テーマに沿った調査研究を行ってまいりました。

蒲生高校には，「学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究」というテーマに沿って，平成30年度から作成していたグランドデザインの見直しを図るとともに，育てたい資質・能力と関連付けて各教科のシラバスを作成し，１年間のＰＤＣＡのサイクルを実践することで，教育目標を実現する研究を行っていただきました。

大口高校には，「学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究」というテーマに沿って，グランドデザインの作成を通して育てたい資質・能力を明確化し，各教科の授業や，総合的な探究の時間の「地域活性化活動」などにおいて，言語能力，問題発見・解決能力，情報活用能力という学習の基盤となる資質・能力の育成の研究を行っていただきました。

屋久島高校には，「現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究」というテーマに沿って，当初の普通科の環境コースでの取組を深化させる方向での研究に加えて，グランドデザインの作成と見直しという過程を経ることで，学校全体で育成する資質・能力を設定と，それを生徒と教員が共有するためのアイコンを作成するなどの研究を行っていただきました。

本冊子は，実践校３校が行った，カリキュラム・マネジメントの充実を図るための実証的な調査研究とその成果を普及することにより，各学校におけるカリキュラム・マネジメントの取組を支援することを目的として作成したものです。

最後に，今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり，各学校においては行事の精選や感染防止に努めていただく中で，例年以上の御苦労があったことと思います。本事業の実施に御協力いただきました関係各位に感謝申し上げますとともに，本手引きの活用により，各学校におけるカリキュラム・マネジメントの充実が図られることを祈念いたします。

令和３年３月

高校教育課長　　堀之内　尚郎

1　カリキュラム・マネジメントとは

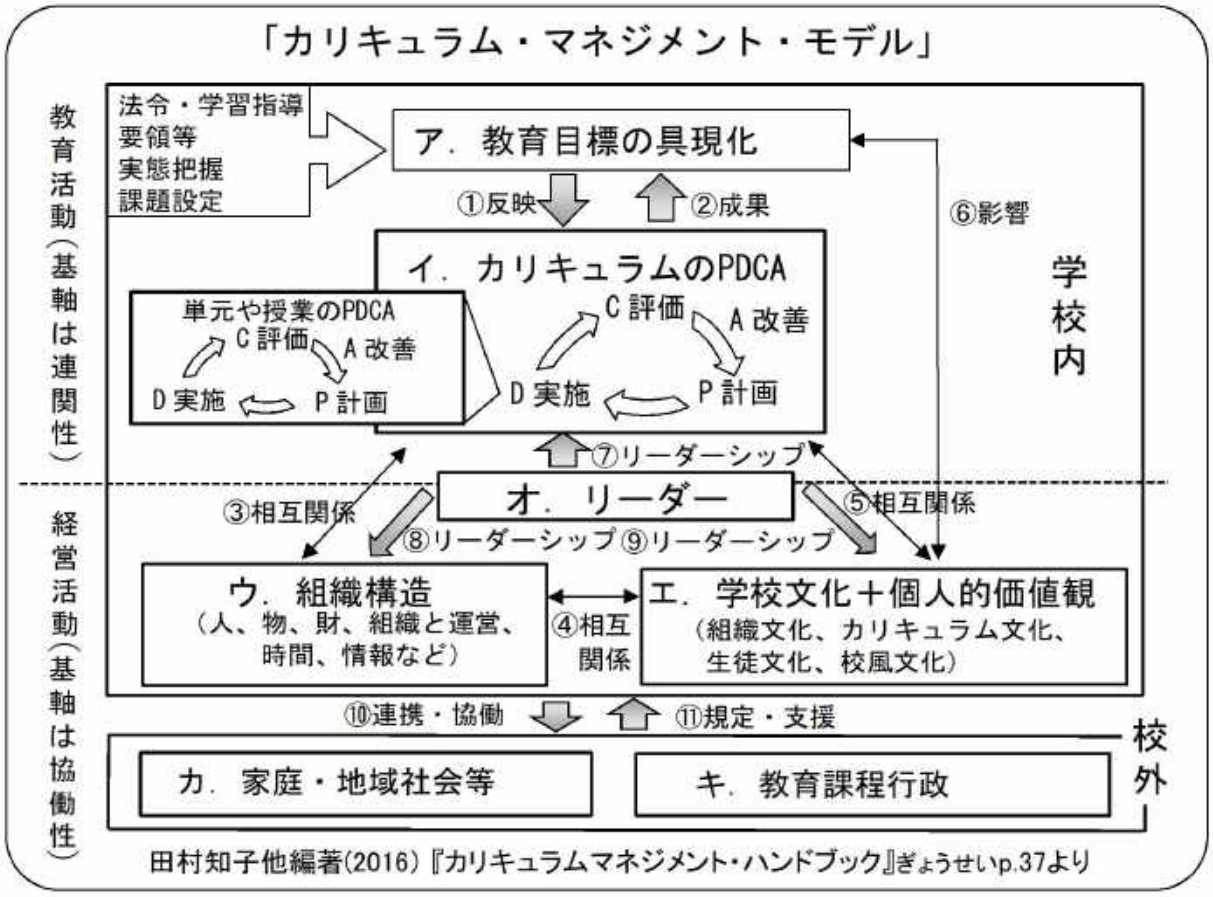
新学習指導要領解説の総則編の第３章第１節の５「カリキュラム・マネジメントの充実（第１章総則第１款５）」においては，カリキュラム・マネジメントは，学校教育に関わる様々な取組を，教育課程を中心に据えながら組織的かつ計画的に実施・評価し，教育活動の質の向上につなげていくことであり，平成28年12月の中央教育審議会答申の整理を踏まえ次の三つの側面から整理するとともに，以下のように示されている。

生徒や学校，地域の実態を適切に把握した上で，
- 教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと
- 教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと
- 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと

などを通して，教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくことと定義している。

各学校においては，総則の全体像も含めて，教育課程に関する国や教育委員会の基準を踏まえ，自校の教育課程の編成，実施，評価及び改善に関する課題がどこにあるのかを明確にして教職員間で共有し改善を行うことにより学校教育の質の向上を図り，カリキュラム・マネジメントの充実に努めることが求められる。

次にカリキュラム・マネジメントの全体像を把握するために「カリキュラム・マネジメント・モデル」を示す。



田村知子他編著(2016)『カリキュラムマネジメント・ハンドブック』ぎょうせいp.37より

2　グランドデザインについて

1）グランドデザイン（以下GD)とは

学校の教育ビジョンを具体的に言語化したもの。
（ 組織として「こうありたい」と願う姿，構想）
→自校の教育課題に対する，教育方針や教育計画，教育課程全般を示したビジョン

※　以下のグランドデザインについての記述は，「カリキュラムマネジメントの方法と課題②－ なぜグランデザインなのか－」鹿児島大学教職大学院 溝口和宏教授 の資料から作成

2）作成のポイント①：プロセス

・ 組織のビジョンが個々の構成員に共有されていること
（個々人が共有できるだけの具体性を備える）
・ 個人のビジョンを組織のビジョンに反映させる機会 ・過程をもつこと
（ビジョンを押付けでなく、自分たちのものとする）

田村知子他編著(2016)『カリキュラムマネジメント・ハンドブック』ぎょうせいp,62より

3）作成のポイント②：具体性

・一般的・抽象的な表現でなく，「めざす学校像」「めざす生徒像」を具体的な姿で描き出す。
・教育の重点目標を，「生徒の姿」で描き直す。
例：《重点目標》　未来志向をもった生徒
例：《めざす生徒像》 将来の生き方や進路実現をめざして努力する生徒

4）多様なGDへ

「めざす生徒像」を具体化できれば，そうした姿へと生徒を成長させていく多様な場面を想定できる。
→ 「教科・領域等の指導・経営」，「特別活動の指導・経営」
「学級経営・学年経営」　　等のGD作成へ
＊領域や活動の目標や特性に合わせ，具体化させる。

5）GDと「年間計画（単元配列）表」の関連付け

〇教科横断的なカリキュラムの作成に向けて　**カリキュラムの見える化**

1）「めざす姿」」を教科間で関連づけ
・めざす姿に関連する内容・活動を教科ごとに言語化し，関連付けを線で明示
（姿が複数の場合，色分けして明示）
2）「めざす姿」の育成機会の積み上げ
・めざす姿の育成を図る機会を，教科横断的に繰り返して設定
3）「めざす姿」の評価に向けて
・中長期で子供の姿を記録し，変容を評価。（行事をつなぐPDCA,個人内評価の工夫）

6）GDを活かす方略

〇学校で定期的に作成する文書を活用する
1）　年間カリキュラムへの加筆，見直し・修正
・実践での反省　気づきを記録，次年度に反映
・可能であれば、学期ごとに修正版を作成
2）　定期の配布物でGDへの取組を明示
・週案に、重点化を図る教科・時間を明示
・保護者・地域に向けた定期配布物での説明

３　実践校の取組と手引きのポイントについて

各実践校の研究テーマについては次のとおりである。

蒲生高校:「学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程再編の重点など）の設定及び実現に向けた研究」
大口高校:「学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究」
屋久島高校:「現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究」

蒲生高校は，平成30年の段階でグランドデザインが作成されており，昨年度の段階で，育てたい資質・能力の重点指導項目の設定と指導計画を策定が行われており，手引には今年度の各教科の取組と成果等についてまとめられている。

また，蒲生高校生に身につけてほしい資質・能力が具体的に定義づけられていたり，グランドデザインと連携した単元配列表がシラバスに付け加えられたりしている。

本手引きでは，グランドデザインを基にした，全教科で教育目標を達成するカリキュラム・マネジメントのモデルとして蒲生高校を捉えている。また，学校全体でＰＤＣＡのサイクルでの取組が積極的に行われている。

大口高校は，地域の「曽木の滝公園もみじ祭り」に多くの生徒がボランティアとして参加していたことから，総合的な探究の時間において地域の行事とかかわりながら，研究テーマに取り組もうとした。しかし，新型コロナウイルス感染症の影響により，地域の行事が中止となり，計画を変更をすることになった。グランドデザインの作成やシラバスの見直しを行うことで，各教科における学習の基盤となる資質・能力の育成を図るとともに，総合的な探究の時間を，「地域活性化活動」として，地域と連携して探究する活動を行い学習の基盤となる資質・能力の育成を図っている。

各教科と総合的な探究の時間により，学校全体で取り組むカリキュラム・マネジメントのモデルである。

屋久島高校は，以前から普通科の中にある環境コースにおいて「現代的な諸課題に対応する資質・能力」の育成を教科横断的な視点から行っていたことから，当初は環境コースの取組を深化させる計画であった。その後，カリキュラム・マネジメント検討会議での委員からのアドバイスにより，環境コースの取組を，環境コース以外の普通科の生徒や，情報ビジネス科の取組と連携し，学校全体で「現代的な諸課題に対応する資質・能力」を育成するカリキュラム・マネジメントのモデルとして取り組んでいる。この間の工夫と変化については，３つのグランドデザインから確認することができる。

４ 実践報告（1）鹿児島県立蒲生高等学校

テーマ「学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程再編の重点など）の設定及び実現に向けた研究」

学校教育目標

知・徳・体のバランスがとれ，困難に負けない精神力を持って何事にもチャレンジし，未知の世界にあっても，豊かな創造力と社会性及び課題解決力によって，他と協働しつつ地域社会に貢献できる人物を育成する。

見直しのプロセス

見直しのプロセス（現状見直しの取組について）

グランドデザインの検討（令和元年度）

教育課程委員会で検討。県外先進校視察を実施。

グランドデザインの検討（令和２年度）

カリマネ検討委員会を設置し，計画・立案を担当。また，必要に応じて教科主任会，企画委員会，職員会，職員研修を実施。

年度初めの職員会議でグランドデザインおよびカリキュラム・マネジメントの取組について係で説明し，職員の共通理解を深めた。

学校が目指す生徒像についての議論

(1) 生徒の現状を把握するため，学びの基礎診断やＱＵテストなどの各種調査を実施し，学習指導委員会や職員研修を通して，今後の指導の内容や手順について道筋をつけた。

(2) 本校では，グランドデザインに「育てたい資質・能力」を12項目掲げているが，(1)の議論を踏まえ，昨年度（令和元年度）から重点指導項目として「表現力・読解力の育成」を設定し，取り組んでいる。

(3) 上記「表現力・読解力の育成」について

- 令和元年度３学期･･･指導計画の策定
- 令和２年度１学期･･･取組実践期間
- 令和２年度夏季休業中･･･取組の振り返り，確認
- 令和２年度２学期以降　･･･取組の継続，改善

(4) グランドデザインについては，「育てたい資質・能力」を10項目に統合，さらに「蒲生高校生に身につけてほしい資質・能力」を付記。レイアウト変更は検討中。

見直しのプロセス

○話し合ったことをどのように共有化したか

・　カリマネ検討委員会で前ページの (3) の細案を教科主任会で提案。各教科の取組について報告を職員研修で行う。「表現力・読解力の育成」については，成果と課題が示され，職員で共有した。

・　「表現力・読解力の育成」について，６月に校内研究授業と授業研究を実施。（指導例の提示と共有）

○どのような機会，場面を設定あるいは利用して，見直しを進めたか。

・　成果報告会を11月に実施。成果報告に併せて，国語と数学の研究授業を実施。他校の先生方のご意見も多数いただいた。（相互授業参観）

・　グランドデザインの見直しについては，職員にアンケートを実施。結果をもとにカリマネ検討員会で検討。職員会議等で提案を行った。

カリキュラム・マネジメントによって生まれた全体像

○どのような生徒を育てたいのか

令和元年度から実施された学びの基礎診断の結果について，学習指導委員会で分析を行った。今後の指導の方向性として授業内容を理解し，それをもとに自分の意見を発信し，表現する力を身につけさせる（読解力・表現力）が示された。また，さまざまな場面において主体的な判断のもと，適切な対応ができる，「自立した生徒」の育成を基本とした指導を基盤とした。

○育成を目指す資質・能力

困難に立ち向かう課題解決力

自己理解と人間関係形成能力

他と協働し社会に貢献する力

以上３つの柱とそれを支える10個の項目を設定
（内容の近い４項目を２項目にまとめた）

○グランドデザインのポイント

教育目標や育てたい人物像は，本校のこれまでの指導理念や理想像が盛り込まれており，手を加えてはいない。それを支える資質・能力とはどういうものか，という点に焦点化し論議の対象とした。また，本校生が身につけてほしい資質・能力について明文化し，具体的な指導目標とした。

カリキュラム・マネジメントの体制（組織図）

・ 令和元年度（平成31年度）
　→教育課程委員会（10人）
・ 令和２年度（今年度）
　→カリマネ検討委員会（３人）
・ 委員の数を減らし，係会を週１回設定。少人数のため打ち合わせ等も設定しやすく，役割分担を明確にすることができた。

年間のカリキュラム・マネジメント　スケジュール

・ 前年度３学期にシラバス作成（資質・能力との関連づけ）と「表現力・読解力の育成」について各教科に指導計画作成を依頼(P)
・ 年度当初の職員会議でグランドデザインおよびカリキュラム・マネジメントについて係から説明
・ １学期に各教科での取組を実施(D)
・ 夏季休業中･･･取組の振り返り，確認(C)
・ ２学期以降　･･･取組の継続，改善(A)
・ 年度末に各教科で１年間の成果と課題について確認および来年度の指導計画やシラバスの作成

※取組の振り返り，確認(C)について，職員研修を実施
※来年度以降はカリキュラム・マネジメントの達成度についての職員・生徒へのアンケートを実施予定（形式や内容については検討中）

グランドデザインと連携した単元配列表（ＰＤＣＡのＰ）

・ 従来のシラバスに，各単元毎の育てたい資質・能力との関連づけを表形式で作成，追加（以下は英語科の例）

コミュニケーション英語Ⅲ（３年生・普通科）
年間指導計画（Vivid English Communication Ⅲ　第一学習社）

学期	学習内容	学習のねらい	備考	育てたい資質・能力	
2	Lesson 4 Can Cellphone Recycling Help African Gorillas?	・携帯電話のリサイクルがコンゴのゴリラとどのような関わりがあるかを読み取らせる ・生物や環境を守る取組について自ら考えさせる ・リサイクル製品や絶滅の危機に瀕した動物について発表させる	It is said that ･･･，比較級 and 比較級を理解し，文を作ることができる	①基礎的・基本的な知識・技能	○
				②論理的思考力	○
				③的確な判断力	○
				④豊かな表現力	○
				⑤プレゼンテーション能力	○
				⑥主体性	○
				⑦チャレンジ精神	
				⑧コミュニケーション能力	○
				⑨協働性	○
				⑩豊かな心	○
				⑪体力・精神力	
				⑫自己管理能力	○

・ カリキュラム相関図については各教科で作成し，それ以外の項目（学校行事など）については，職員アンケートをもとに作成。
・ 今後は各教科毎に「蒲生高校生に身につけてほしい資質・能力」を作成し，シラバスに付記することを想定している。

蒲生高校グランドデザイン 2018-2019

グランドデザインの見直し

育てたい資質・能力の整理→３つの柱と１０項目へ

蒲生高校グランドデザイン
大楠プラン　2020-2021へ変更

鹿児島県立蒲生高等学校　大楠プラン　２０２０～２１

教育目標	知・徳・体のバランスがとれ，困難に負けない精神力を持って何事にもチャレンジし，未知の世界にあっても，豊かな創造力と社会性及び課題解決力によって，他と協働しつつ地域社会に貢献できる人物を育成する。

育てたい人物像	基礎・基本的学力および思考力・判断力・表現力を備え，学ぶ意欲あふれる人物（知）	礼節を弁え，豊かな人間性や社会性を備えたチャレンジ精神あふれる人物（徳）	困難に負けない体力と精神力を備え，健康な生活を自らの力で維持できる人物（体）
	「時を守り，場を清め，礼をただす」が自然体で実践できる人物		

	困難に立ち向かう課題解決力	自己理解と人間関係形成能力	他と協働し社会に貢献する力
育てたい資質・能力	①基礎的・基本的な知識・技能（**読解力**・記述力・計算力） ②論理的思考力 ③的確な判断力	**④豊かな表現力** ⑤主体的チャレンジ精神 ⑥コミュニケーション能力 ⑦自己肯定感	⑧協働性 ⑨体力・精神力（忍耐力・粘り強さ） ⑩自己管理能力

蒲生高校グランドデザイン 大楠プラン
2020-2021 ②

カリキュラム相関図
育てたい資質・能力の関連づけの見直し

カリキュラム相関図

		課題解決力			自己理解と人間関係系勢力				他と協働し社会に貢献する力		
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
すべての教育活動	国語科	◎	○	○	◎	○	○	○	○	○	
	地歴公民科	◎	○		◎	○	○		○	○	
	数学科	◎	○		◎	○				○	
	理科	◎	○	○	◎	○			○		
	保健体育科	◎	○	○	◎	○	○	○	○	○	○
	芸術科	◎			◎	○	○		○	○	○
	外国語科	◎	○		◎	○	○			○	
	家庭科	◎	○	○	◎	○	○	○	○	○	○
	情報科	◎	○	○	◎	○	○		○		○
	情報処理科	◎	○	○	◎	○	○	○	○	○	○
	大楠タイム・課題研究	○			◎	○	○				
	HR活動				○		○		◎		
	学校行事				○	○		○	◎		
	生徒会活動				○		○	○	◎		
	部活動					○			○	◎	
	ＰＴＡ・同窓会				○		○		◎		
	地域連携										
教育の原点「人権教育」（この子たちのために）											

蒲生高校生に身につけてほしい 資質・能力の定義づけ

蒲生高校生に身につけてほしい「資質・能力」

①課題解決のための必要な知識や技能を身につけている	②得られた知識や情報を自分なりに再構成し，課題解決の方法や手順を考えることができる	③今までの取り組みを振り返り，課題解決に向けてよりよい方法を選択する	④目的や場に応じたふさわしい表現のしかたを考え，人前で発表することができる
⑤新しい課題に興味や関心を持ち，自主的に挑戦する姿勢を持つ	⑥他人の意見に耳を傾け，自分の気持ちや意見を周囲にわかりやすく伝えることができる	⑦自分に自信を持ち，集団や他者とのつながりの中で自分の役割を見つけ，果たすことができる	⑧他人を思いやり，周囲と協力しながら目標の実現に向けて努力し，喜びをともにすることができる
	⑨さまざまな学習活動・体験活動等において，集中して継続的に取り組むことができる	⑩自分でこころや体の健康を管理しつつ，安定した学校生活を送ることができる	

蒲生高校グランドデザイン 大楠プラン
2020-2021 ③

各教科のカリキュラムの重点目標

カリキュラムの重点目標	国語科	・小テスト等の反復①④　・小テストカードの活用①⑤ ・積極的発言を引き出す授業の展開④⑤⑥
	地歴公民科	・ＩＣＴ機器の活用①③④ ・時事ニュースの活用①②④⑤⑦
	数学科	・生活の中の数学の例示による意欲の喚起と演習①②⑤ ・予習・復習プリントの活用①⑤ ・よりハイレベルな演習問題に挑戦する⑤
	理科	・小テスト等の反復①⑤　・観察・実験及びＩＣＴ教材の活用④ ・自然現象から問題を見いださせる②③⑦
	保健体育科	・集団行動訓練①③⑥⑦⑧　・７領域の活動③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ ・話し合い活動①②③⑥　・課題研究学習①②③④⑥
	芸術科	・鑑賞活動で知識・技能をより具体的に明示① ・表現活動での逐次アドバイス②④⑦
	外国語科	・毎時間の予習チェック①⑤　・ＡＬＴとの言語活動⑤⑥ ・英語検定・スピーチコンテスト参加を意識した個別指導②④⑤
	家庭科	・被服製作１年①②③⑤⑩　・調理実習２年①②③⑤⑩ ・ホームプロジェクト・家庭クラブ活動④⑤⑥⑦⑧
	情報科	・コンピューター実習①②④　インターネット活用実践①②③④⑩ ・ＳＮＳ実践②③④⑥⑧⑩
	情報処理科	・授業での礼節指導①④⑦⑩　・パソコン実習①③④⑤ ・地域産業との連携・交流②③④⑤⑥⑦⑧　・上級資格取得②③⑤
	大楠タイム 課題研究	・大楠タイム（普通科）への取り組み①②③④⑤⑥⑧ ・課題研究（情報処理科）への取り組み①②③④⑤⑥⑧
	HR活動	・HR活動への取り組み
	学校行事	・学校行事への取り組み⑤⑥⑦⑧⑨⑩
	生徒会活動	・生徒会の活動（生徒総会・週番活動・ボランティア活動等）
	部活動	・部活動への取り組み⑤⑥⑦⑧⑨⑩
	ＰＴＡ・同窓会	・各行事への参加・支援　・教育振興資金援助 ・合同登校指導・合同補導
	地域連携	・地域行事への協力⑥⑦⑧・施設訪問④⑤⑥⑦⑧・地域団体の依頼⑤⑥⑦⑧ ・企業とのコラボ⑤⑥⑦⑧　・若者議会参加④⑤⑥⑦⑧

蒲生高校の各教科の取組事例

国語総合の取組の内容

・ 和歌の読解および現代短歌へのアレンジを通した読解力・表現力の育成
→百人一首中の恋の和歌４首の読解を行い，和歌に込められた作者の思いを理解する。
→読解した和歌をグループで現代短歌にアレンジし紅白に分かれて歌合形式で発表し，評価を行う。

成果と課題・改善点

・ 和歌の読解については，グループで活動することでより深く考えることができた。
・ 評価の観点を明確にすることで評価の焦点化が図られた。
・ グループ活動と自分で考える時間の配分や話し合いの進め方・発表の仕方について今後も継続した指導が必要である。

地理Aの取組の内容

・ 熱帯地域および乾燥帯地域の自然と生活を資料から読み取る。
→両地域の分布図，植生等を示した写真から地域の特徴を読み取り，その特徴を文章化する。
→全員が書き込んだ後に，それぞれが書いた内容を発表する。
→出された意見を参考に，補足や訂正をしながら特徴をまとめる。

成果と課題・改善点

・ 図表や写真については，テーマに沿って内容を読み取る練習をする必要がある。現在，毎時間実施しながら，気づきを増やしていく学習をすすめている。
また，読み取った内容を簡潔な文章にするために，教科書の本文等を要約する練習をすすめていく。

10月のカリマネの成果報告会の際の国語の研究授業

蒲生高校の各教科の取組事例

数学Ⅰの取組の内容

・　２次関数の決定
→グラフの軸や頂点等が分かっている場合，２次関数の式 $y=a\ (x-p)^2+q$ のどの部分が分かるかを個人で考察し，全体で共有する。
→複数の条件を組み合わせながら，２次関数がただ１つに決定するような条件の組み合わせを班のメンバーと話し合いながら探す。１つに決定しない場合は必ず反例を挙げさせる。（条件を満たす２通りのグラフをかかせる。）
→班で出た結果を全体で共有する。
→例題を確認し，演習問題を解く。

成果と課題・改善点

・　全体的には，班で話し合いながら意欲的に活動に取り組めていた。２次関数が本当にただ１つに決定しているか，条件の過不足がないかの議論が不十分な班が多かったため，指導者の方から声かけを行い確認させた。
・　これまでの内容の定着度によって生徒の活動への取り組み具合に差が出ていたように感じた。今後，数学においてグループ内で話し合い活動等を行う際には，既習事項の確認を徹底し，理解度によって生徒の活動に差が出ないような配慮を行いたい。

科学と人間生活の取組の内容

・　授業の要点をつかみ，文章で表現する能力を育てる。
→プリントを厚紙に貼り，毎授業の終了時に生徒に記入，提出させている。項目は「日付，学習プリントの番号，学習内容，今日の授業でわかったこと，自己評価」自己評価はS(積極的に取り組めた），A(真面目に取り組めた），B(真面目に取り組めなかった），C(授業の取組が消極的だった）で評価させている。

成果と課題・改善点

・「内容が難しかった」「実験が楽しかった」といったような感想にとどまっているものや，「落下運動についてわかった」「等加速度直線運動の公式を覚えた」というような振り返った際に具体性に欠けるものも見られ，フィードバックの必要性を感じた。
・　今後は次の授業の開始時に前回の授業の復習と併せて，よく書けているものを紹介したり，書き出しやテーマを指定したりして，より生徒にとって有意義なものとなるように工夫を図りたい。

蒲生高校の各教科の取組事例

体育の取組の内容

・　現代的なリズムのダンス
→自分たちで作ったダンスを，リズムの特徴を強調して全身で踊る。
→他のグループのダンスを鑑賞し，良かったところや改善点などをアドバイスカードに記入する。
→発表がすべて終わったら，他のグループからのアドバイスカードや映像を参考にし，より良い作品に仕上げるヒントにする。（指導者は助言・指導をする）
→授業の最後に本時の感想や次時の課題をグループ学習カードに記入する。
→指導者でパフォーマンス評価を実施する。

成果と課題・改善点

・　発表する際には，恥ずかしがらずに堂々と全身で踊るように指導した。学習カードやアドバイスカードは，グループで１枚配布し，互いの意見をまとめて記入するようにさせた。とくにアドバイスカードは前向きな意見が多数みられ，今後の作品作りに役立つものとなった。
　グループの進度に差があり，指導者のパフォーマンス評価にも少なからず影響を及ぼす。今後は，オリエンテーションの段階で，中間評価の日程を定め，期日までに作品を完成させられるよう，より丁寧な指導が必要だと感じた。

音楽Ⅰの取組の内容

・　クラシックギターを通してアンサンブルを楽しもう。
→基本的な奏法を復習する。（指導者は助言・指導を行う）
→ペアで二重奏をする。（生徒相互評価）
→グループに分けて二重奏を発表する。
※他者へ伝える表現力を身につけさせるため，中間発表の場を設けている。

成果と課題・改善点

・音楽はひとりからでも取り組むことができるが，二人以上で音を重ね，演奏することで相手の思いをくみとることや相手に思いを伝えることといった表現力の向上に繋がると考えている。
　また，楽曲の内容を楽譜から読み取らせ，演奏の工夫をさせ，意図を持って表現させることは読解力も高められるのではないかと考える。今後も思いや意図を持って取り組ませていきたい。

蒲生高校の各教科の取組事例

コミュニケーション英語Ⅲの取組の内容

・ ビデオの内容を理解し，それに基づいた自分の意見を述べる
→［ What makes you happy? ］のビデオを視聴し，出演者の考えを知る。
→自分の考えをワークシートにまとめ，発表する。
（指導者は助言・指導を行う）
→発表者以外は評価シートを用いて，発表者の評価を行う。
（生徒相互評価）
→発表がすべて終わったら，ワークシートを回収。指導者でパフォーマンス評価を実施する。

成果と課題・改善点

・ １コマ５０分の限られた時間ではあったが，全員の発表を終わらせることができた。発表の際にはアイコンタクトや声量，速度など注意するよう指導した。生徒は堂々と発表できていたようだ。今後は内容を考える時間を増やし，より深く考え推敲させるよう工夫したい。

家庭総合の取組の内容

・ 自分らしい人生を作る～家族・家庭を見つめる
→家族と法律を学ぶ内容で，現行民法と旧民法（明治民法）の違いについて学ぶ。
→法律について学びながら，家族・家庭のあり方の変化を考える。
→民法改正の検討課題となっている選択制夫婦別姓について現行と改正案のどちらに賛成するか自分の考えをまとめ発表する。クラスでお互いに意見交換をし，他の人の意見もノートにまとめ，最終的な自分の考えをまとめる。（指導者は情報提供を行い，生徒の意見を引き出すようにする）

成果と課題・改善点

・ 発表する際は，周りと同じ意見でないことを気にせずに発表するように指導した。記録は学習ノートを使用し，ア．現行民法　イ．改正案　ウ．その他のどれかに賛成するものとし，分からないという意見がでないようにと説明した。手をあげて自分の考えを表現できる生徒は少なく，安易に答えを出す生徒もいたので，具体的な事案を出し，より深く考えるように情報提供を行った。発表して表現するだけでなく，カードや記録用に言葉として表現する能力も今後は育成していきたい。

蒲生高校の各教科の取組事例

電子商取引の取り組みの内容

・ コンテンツの制作～静止画
→静止画データの取得方法やこれを活用するための技法を習得させる。
→中学生に向けた学校説明会用のポスターを作成する。
→自分の考えをワークシートにまとめる。
ポスターはプロジェクタでスクリーンに写して発表する。
→発表者以外は評価シート（声量・アイコンタクト・速度・内容）を記入し感想を添え，発表者に渡す。
→発表後ワークシート，感想文を回収する。
→発表の態度，ポスターの完成度，感想文を指導者で評価する。

成果と課題・改善点

・ ポスターの中身に関しては，生徒の自由なアイディアで作成することと，コンセプトについても発表できるように指導した。

発表の態度については，声量・アイコンタクト・速度・内容で評価した。また，生徒同士の評価については，否定しないことを説明した上で行った。

予想以上に生徒達は，多くの技法を取り入れて自由に作品を制作し，自信を持って発表することができていた。

また，発表後に他の生徒からの評価が参考になったとの感想が多かった。今後は，動画や音声のデータ取得方法やこれを活用するための技法を習得させ，自分の考えや発想を作品に反映し説明できるように指導していきたい。

令和2年度に向けた各教科の取組の紹介～成果報告会資料より

教科名（芸術科）
○アクティブラーニングを含めた授業改善の取り組み
・これまで同様，アクティブラーニングで授業展開を行う。
・互いの演奏・作品の鑑賞活動を通して知識・技能をより具体的に明示する。
○学び直しや教科横断的な指導の実践（大楠タイム等）
・楽曲や作品の時代背景を分析させる。（歴史分野と関連づけ）
・日本歌曲や外国語の歌曲の歌詞の意味を読み取らせ，言葉の響きの美しさを感じ取らせる。（国語，外国語分野との関連づけ）
○シラバス（年間指導計画）や単元計画の見直し（本校生の実態に即した弾力的な運用計画）
・シラバスに即した授業の実践とともに，生徒の実態に合わせて学習内容の選択を行う。
○学習に向かう姿勢や能力の育成（学習に向かわせる工夫・ルール作り）
・できるだけ多くのジャンルの楽曲・作品に触れさせ，芸術に幅広く興味を持たせる。
・技能習得したものを個人の喜びだけにとどめるのではなく，他者へ披露し，その時に生まれる緊張感や達成感を味あわせ，意欲・関心を引き出す。
○自己管理能力や人間関係形成力の育成（暖かみのあるクラス・集団の形成）
・重奏・重唱・協同制作を通して，他者との美しい音楽創りやものづくりを成功させるために互いに意見を出し合い，工夫し合うことで，相手の考えや自分との思いの違いにもつながることを伝え，他者とどのように向き合っていくことが大切かを身につけさせる。

令和2年度に向けた各教科の取組の紹介～成果報告会資料より

教科名（ 保健体育 ）

（教科保健）

１年

グループ活動の中で「意見を述べる」「意見を聴く」「意見をまとめる」という作業をしながら論理的思考力や表現力，協働性を養う。

２年

グループ活動を増やし，自らが課題を発見し，その解決するための方法を話し合う事ができるようにする。

単元「環境と健康」では課題研究学習をおこない，自分や仲間と共通のテーマについての調査・意見交換を行う過程において表現力や読解力を身につけさせる。また，学習の成果についてICTなどを使って発表し，プレゼンテーション力を育成する。

（教科体育）

１年

「ネット型」「ゴール型」それぞれの競技の特性を理解しながら，グループ活動の中で味方や相手と関わりながらチームや個人の課題を発見し，それを改善するための練習方法や技術的な改善点などの自分で考えたことをチームメイトや相手に伝える力を養う。

２年

個人競技（器械運動・陸上競技）を通して身体運動を高めるとともに，他者との違いに気づき，動きを言語化するという過程において表現力を身につけさせる。

ダンスでは，表したいテーマやイメージを動きによって相手に伝えるという作品を制作する過程において，仲間と楽しく自由に踊ったり，自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わいながら豊かな表現力や協働性を身につけさせる。

２年

１年次よりさらにグループ活動を発展させ，自己やチーム（仲間）の課題を解決するための方法を考え実行しながら，PDCA サイクルを意識し，さまざまな活動に取り組む事で論理的思考力・表現力を身につけさせる。

３年

２年次よりさらに発展させ，一人一人が積極的に授業に関わりながら生徒自らが創意工夫して，皆が楽しめる授業をめざす。具体的には，種目の選択，チーム分け，大会の設定など長期的な計画，そして数時間ごとの授業の展開さらに１時間単位での授業の展開など，授業に関わる全ての活動を生徒が，PDCA サイクルを意識しながら主体性を持って活動できるようにする。

評価について～成果報告会資料より

数値化できないこれからの評価

パフォーマンス評価

知識やスキルを使いこなす（活用・応用・統合する）ことを求めるような評価方法。論説文やレポート，展示物といった完成作品（プロダクト），スピーチやプレゼンテーション，協同での問題解決，実験の実施といった実演（パフォーマンス）を評価する。

ポートフォリオ評価

生徒の学習の過程，成果などの記録や作品を計画的にファイル等に集積。そのファイル等を活用して生徒の学習状況を把握するとともに，
生徒や保護者等に対し，その成長の過程や到達点，今後の課題を示す。

ルーブリックを用いた数値化

成功の度合いを数レベル程度の尺度と，
それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を示した記述語（評価規準）からなる評価基準表

ルーブリック評価の例

評価項目／点数	3	2	1
声量・速度	よく伝わった	やや伝わりにくい	あまり伝わらない
目線・態度	相手を向いている	やや不十分	下を向いている
内容・構成	基準をどちらも満たしている	どちらかの基準を満たしている	基準をどちらも満たしていない

担当者や各教科が，取り組んだ際に工夫したことや，苦労したこと，今後の課題など

グランドデザインおよびカリキュラム・マネジメントについて本校のグランドデザインは，平成30年度末に管理職から提案されたものが出発であるが，それを教育活動の中でどう生かしていくかを考えていくところから取組がスタートした。

(1) 工夫した点

- カリキュラム・マネジメント係を校務分掌に位置づけ，定例の会が持てるようにした。
- 令和元年12月に県総合教育センターから講師をお迎えし，職員研修を実施。今後の取組について共通認識を持つことができた。
- 同時期に生徒に授業評価アンケートを実施。学習や授業に対する生徒の意見を生かした指導の在り方を検討した。
- 令和２年２月県外先進校視察を実施。後日職員会議で様々な取組の事例について報告があり，次年度指導計画の参考にした。
- 令和２年２月に次年度シラバスの作成を各教科に依頼。その際に各単元に「育てたい資質・能力」の欄を設け，グランドデザインとの関連づけを検討してもらうようにした。

(2) 苦労したこと

- グランドデザイン2018－2019がほぼ完成された構成・内容であり，それに基づいた指導の在り方を検討するまもなく，グランドデザインの見直しの検討に取り組んでしまった。ＰＤＣＡサイクルで取り組むにはやや無理があった感じは否めない。
- 育てたい資質・能力を12項目から10項目に統合し，３つの柱を新設したが，（県の）検討委員の先生方から貴重なアドバイスを頂き，なんとかまとめることができた。
- グランドデザインの作成については，指導計画だけでなく評価（グランドデザインの達成度）まで含めたトータルパッケージングを意識して取り組むべき。本校はルーブリックを用いたグランドデザインの達成度評価を現在検討中。
- これまでに職員研修を何度が実施したが，年間行事にあらかじめ入れておかないとなかなか計画ができない。

(3) 今後の課題

- グランドデザインを基盤としたカリキュラム・マネジメントの取組（ＰＤＣＡサイクル）が単年度で実施できるデザインを検討中。
- グランドデザインはシンプルなほうが指導の焦点化がしやすいのではないか。本校では「読解力・表現力の育成」を重点指導項目としたが，何をどう指導するのかについては，生徒の実態も考慮しながら実施の前年度に計画しておくべき。
- カリキュラム相関図とシラバスの作成については，本校もまだまだこれからだが，できるところから徐々に取り組んだほうが，継続した取組になっていくと思う。
- ルーブリックやポートフォリオをさらに活用し，数値化しにくい力をどう測り評価していくのか検討していきたい。

管理職の所見:カリキュラム・マネジメントを進める際に，工夫したことや，苦労したこと，今後の課題など

令和元年度から２年間，文部科学省の委託事業として，グランドデザインを基にした全教科型で教育目標を達成するカリキュラム・マネジメントについて研究を行ってきた。
研究に際し最も腐心した点は一部の教師の取組ではなく，全職員が参加するということであった。

初年度は研修の進め方の手法に熟知している職員をチーフとした教育課程委員会で検討を重ねた。まだ感染症等の状況が大きくなる直前の時期に県外先進校視察も実施できたことも幸いであった。
２年目はカリキュラム・マネジメント係を校務分掌に位置づけて時間割の中に係会を組み込んだ。その結果少人数で効率的な研修の遂行につながった。

職員による議論の結果，「表現力・読解力の育成」を全ての教科で取り組むことになり，ベテランの教諭が６月に率先して校内職員対象に英語の研究授業を実施した。11月には他校や教育委員会等にも案内をし，成果報告会を兼ねて国語科と数学科の若手教諭による研究授業を実施した。学校が一丸となって取り組んでいることを評価していただいた。

２年にわたる研究で，職員が同じ視点で生徒を育てるという方向性が構築できたことが大きな収穫であった。「自立した生徒」の育成に向けて学校としての取組は今後も継続していかなければならない。様々な課題も残されているが，この委託事業を通して一歩前へ進めたことに感謝したい。

令和２年　10月27日　成果報告会実施
国語と数学の研究授業と成果報告会

4　実践報告 (2) 鹿児島県立大口高等学校

テーマ「学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究」

学校教育目標

日本国憲法及び教育基本法の精神及び建学の理念に基づき，生徒一人一人を大切にしつつ自ら進んで学び常に向上してやまない意欲と，様々な社会の変化にも柔軟に対応し主体的に行動できる，心身ともに健康で創造性，協調性，社会性に富む生徒を育成する。また，国際感覚を身につけるとともに郷土を愛し，社会に貢献し信頼される心豊かな人材を育てる。

見直しのプロセス

(1)　検討過程について

本校生徒の実態から決定した。学校での実態と家庭・地域での実態も含め，育てたい資質・能力を８項目示した。学校での授業や行事，諸活動を通した職員の生徒観察，ＰＴＡを通した保護者連携，学校評価委員会や地域の方々との情報交換などを含め，現在本校生徒に望まれる８項目を校長が決定した。

(2)　見直しの共有について

校内にカリキュラム・マネジメント検討委員会を設置すると共に，職員会で全職員が共有。

カリキュラム・マネジメントによって生まれた全体像

○　育てたい生徒

人口減少の地方都市に所在する本校であるが，社会に出た時に各分野で活躍できる豊かな人間性を備えた人材育成を目指し，必要な資質・能力として以下の８項目を掲げた。

学　力　｜　情報活用能力　｜　適切に判断する力　｜　発信力

協働力　｜　ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力　｜　ﾁｬﾚﾝｼﾞし，やりぬく力　｜　自治能力

これらを通して学習の基盤となる次の資質・能力を育成する。

言語能力　｜　問題発見・解決能力　｜　情報活用能力

○グランドデザインのポイント

上記の資質・能力を学校生活のあらゆる場面（各教科，総合的な探究の時間，HR活動，学校行事，部活動，生徒会活動，他）や地域活動を通して育成していく。

大口高校グランドデザイン

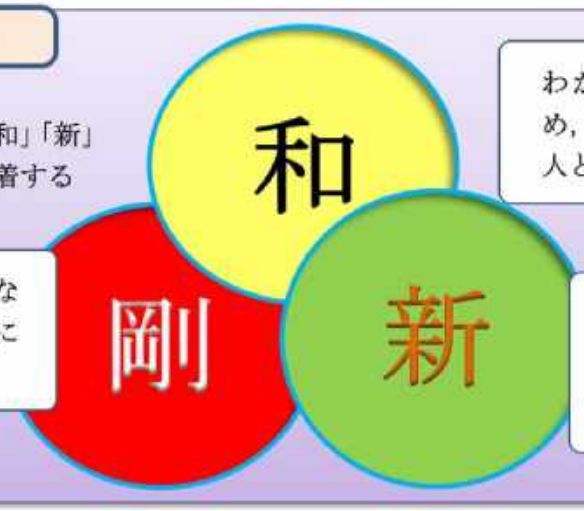
鹿児島県立 大口高等学校

教育目標

日本国憲法及び教育基本法の精神及び建学の理念に基づき，生徒一人一人を大切にしつつ自ら進んで学び常に向上してやまない意欲と，様々な社会の変化にも柔軟に対応し主体的に行動できる，心身ともに健康で創造性，協調性，社会性に富む生徒を育成する。また，国際感覚を身につけるとともに郷土を愛し，社会に貢献し信頼される心豊かな人材を育てる。

めざす生徒像

教育目標は「剛」「和」「新」の校訓の理念に帰着する



わが心の和を求め，誠実をもって人と協調する

何事にもくじけない強い意志で事にあたる

向上心を持ち，日々新たな自分を創る

育てたい資質・能力

学　力
授業，朝課外，長期休業中の課外授業等

情報活用能力
各教科，HR活動，総合的な探究の時間等

適切に判断する力
HR活動，各種集会，儀式的行事等

発信力
授業，総合的な探究の時間，地域貢献活動等

協働力
遠足，修学旅行，体育祭，文化祭，クラスマッチ，部活動，地域貢献活動等

ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力
授業，HR活動，部活動，地域貢献活動等

ﾁｬﾚﾝｼﾞし，やりぬく力
総合的な探究の時間，進路選択，入試・就職活動等

自治能力
生徒会活動，部活動，学校行事等

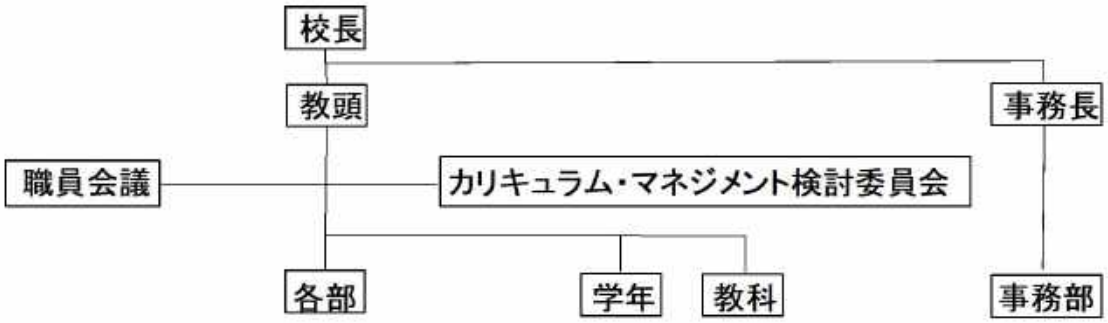
主な関係機関との連携事業

ICT を活用した学習支援（市），大学からの出前授業，地域貢献活動「もみじ祭り」プロデュース（市，市観光協会，大学），ボランティア活動参加（市，地域，企業），市内小・中学生への学習支援，各中学校での里帰り報告，新大口塾（同窓会）

カリキュラム・マネジメントの体制（組織図）

カリキュラム・マネジメント検討委員会

構成委員〔・教頭　・世話役　・各教科代表7名〕



組織編成のポイント
・委員の構成は，各教科との連携が確実に取れるように，各教科代表とした。
・世話役は，総合探究学習係から選出している。

年間のカリキュラム・マネジメント　スケジュール

4月	職員会議での全職員への確認（・カリキュラム・マネジメントについて ・本校の目標　グランドデザイン ・今後の取組について）
5月	第1回カリキュラム・マネジメント検討委員会（・教育課程における各教科の課題と目標・各教科の評価法に関して ・シラバスの改定（追加事項）について）
6月	(1)改訂版シラバスの作成（追加分） (2)全科目がグランドデザインに沿った項目を追加
9月	第2回カリキュラム・マネジメント検討委員会 （・各教科の取組状況について ・教科からの中間報告書の提出）
11月	第3回カリキュラム・マネジメント検討委員会 （・各教科の取組状況について ・評価と研究発表について）
12月	(1)総合的な探究の時間「地域活性化活動」中間発表会 (2)カリキュラム・マネジメントに関する公開研究授業
1月	第4回カリキュラム・マネジメント検討委員会 （・各教科の年間を通した取組について ・職員へのアンケート調査）
2月	第5回カリキュラム・マネジメント検討委員会 （・生徒による自己評価の実施と分析 ・研究テーマのまとめ）
3月	(1)総合的な探究の時間「地域活性化活動」最終発表会 (2)第6回カリキュラム・マネジメント検討委員会（振り返りと来年度へむけて）

シラバスにグランドデザインに沿った資質・能力の項目を追加

学 年	コース	教 科	科 目		単位数
2年	全	保健体育	体育	必修	3

育てたい資質・能力	各科目における活動内容
1学力	(1) 毎時間の補強運動をとおして，基礎的な体力の向上を図る。 (2) 体を動かすことによって，爽快感，達成感，他者との連帯感などを味わい，心身の健全な発達を促す。 (3) 体育理論や保健と関連させることによって，知識を深めるともに技能を高め，運動の楽しさや喜びを深く味わい，健康・安全を確保して，スポーツができるようになる。 (4) 「する」「見る」「支える」「調べる」などスポーツを通して，明るく豊かで活力ある生活を営むことができる。
2情報活用能力	(1) 新体力テストの分析データをもとに，自己の課題を把握し，その後の体力向上を図る。 (2) 長距離走での走行前心拍数や走行後心拍数を測定することにより，自己の体に気づき，運動の合理的な実践力を高める。
3適切に判断する力	(1) 新体力テストや長距離走の受業データを活用しながら，ロードレース大会の目標タイム設定や日々の受業における自分なりの目標設定をさせる。
4発信力	(1) 当該種目の部活動生や経験者がその他の生徒にルールや技術などを教える活動をとおして，他者に対してわかりやすく説明できるようになる。 (2) 振り返り活動の中で，自己の課題やチームの課題，良かった点などを発表させることによって，課題を明確に捉え，他者に伝えられるようになる。
5協働力	(1) グループやチームでの活動をとおして，公正，協力，責任，参画などに対する意欲を高める。 (2) グループやチーム内でのアドバイスや教え合う活動をとおして，自己やチームの課題の解決を図る。
6コミュニケーション力	(1) グループやチームの課題解決に向けた話し合い活動をとおして，他者との合意形成を図る。 (2) 戦術や作戦を立てる活動をとおして，他者との合意形成を図る。
7チャレンジし、やりぬく力	(1) 記録の向上を目指すことによって，自己の体力の向上を図る。 (2) タイムや心拍数を測定することによって，自己の限界に挑戦する。
8自治能力	(1) 競技会やリーグ戦をとおして，自分たちで協力し，企画，運営ができるようになる。

月	学習内容	育てたい資質・能力							
		1	2	3	4	5	6	7	8
4	体つくり運動	○	○	○		○	○	○	
5	球技選択Ⅰ	○			○	○	○		
6	球技選択Ⅰ	○			○	○	○		
7	陸上競技Ⅰ	○	○			○	○	○	○
9	球技選択Ⅱ	○			○	○	○		
10	球技選択Ⅱ	○				○	○		○
11	球技選択Ⅲ	○			○	○	○		
12	球技選択Ⅲ	○				○	○		○
1	陸上競技Ⅱ	○	○	○	○			○	
2	陸上競技Ⅱ	○	○	○	○			○	
3	陸上競技Ⅱ，体育理論	○	○	○				○	○

大口高校の具体的取組

総合的な探究のＰＤＣＡ

総合的な探究のP

1　地域（伊佐市）の現状を調査・分析→課題発見
「課題解決のために何ができるか」

2　探究する活動過程
言語能力，問題発見・解決能力，情報活用能力の育成

3　探究法
⑴　グループによる活動
⑵　伊佐市地域おこし協力隊や地域の関係者のアドバイスを受けながら，地域の実情に即した活動とする。

総合的な探究のD

1　伊佐市の現状を調査・分析←情報活用能力の育成
⑴　インターネット上での調査
⑵　統計資料の確認
⑶　インタービュー，アンケートによる調査

2　課題の発見
１を踏まえ地域の課題を考える←問題発見の能力の育成

3　解決のために何ができるか
２を踏まえ課題解決のための具体策を考える←解決能力の育成

4　過程（1～3）をポスター・プレゼンテーションで発表←言語能力と情報活用能力の育成

総合的な探究のC

1　各テーマに関しての生徒の意識
専門的な仕事や活動をしている地域の方々を迎え，講話をしてもらうことで，生徒の意識が高まった。

2　課題発見
地域の課題は，具体的に示す必要がある。

3　解決のためにできること
解決策は概念的なものではなく，生徒自らができるものを考えることで解決能力が深まる。

総合的な探究のＰＤＣＡ

総合的な探究のA

1　中間発表を設けることで，調査・分析内容をブラッシュアップする必要性を認識
　⑴　自分たちで統計資料を解析する必要性
　⑵　アンケート・インタビューで確認
　⑶　自分たちの問題として捉える

2　現実に即したさらなる具体策へのステップアップ

資料　「総合的な探究の時間の取組」に関するアンケート

※　育てたい資質・能力や，学習の基盤となる資質・能力に関連したアンケートを実施

この1年間の「総合的な探究の時間」の取組を通して，生徒の皆さんにアンケートをお願いします。

1　下の⑴～⑺の各項目の「能力・能力」について，あなたに当てはまるものを次のア～エから選び，記号を書き入れてください。

ア　かなり身に付いた	イ　少しは身に付いた
ウ　あまり身に付かなかった	エ　まったく身に付かなかった

		回答欄
⑴	【情報活用能力】 （必要な情報を入手し，信頼性を判断し，適切に情報を活用できる）	（　　）
⑵	【適切に判断する力】 （問題や課題について，自分で適切な判断ができる）	（　　）
⑶	【発信力】 （自分の意見などを他人に述べたり，発表できる）	（　　）
⑷	【協働力】 （友達や周囲と協力しながら活動していくことができる）	（　　）
⑸	【コミュニケーション力】 （相手とお互いの考えや意見などを伝えあうことができる）	（　　）
⑹	【チャレンジし，やり抜く力】 （目標を立て，それを達成していこうとする姿勢がある）	（　　）
⑺	【自治能力】 （自分や地域のことなどを，自分たちのこととして考えることができる）	（　　）

2　次の⑴～⑶の能力は，「総合的な探究の時間」のどのような場面や取組みを通して，あなたの能力育成に役立ったか，書いてください。

⑴　言語能力（話すこと，聞くこと，書くこと，読むことなど言葉に関する能力）

⑵　問題発見・解決能力（問題や課題を見つけ，それを解決する（していこうとする）能力）

⑶　情報活用能力（＊1－⑴参照）

3　その他，総合的な探究の時間の取組を通して，あなたが思ったことなどを自由に書いてください。

総合的な探究の時間「地域活性化活動」に関する資料

総合的な探究の時間「地域活性化活動」の今後の予定

☆「地域活性化活動」は伊佐市と連携して行う

日付	活動内容		
10月8日	テーマ設定	分野別テーマから更に班ごとの調査テーマを設定する。 「伊佐の〇〇〇について」(〇〇〇を考える)	
10月22日	調査①	調査①②どちらかで, (1)班ごとのテーマに基づいて,調査をする。 ※中間発表会に向けて作成するポスター(壁新聞)の項目内容は事前に生徒に知らせる。 (2)分野別テーマについて地域の方を講師としてお呼びし,講演をしてもらう。	
11月5日	調査②		
11月12日	調査③	調査①②に基づいて,地域の課題を意識して調べる。	
11月26日	課題設定 (「問い」を考える)	調査の内容をメンバー全員で振り返る。 地域の課題について考える。 「問い」をたてる。	
12月3日	発表準備	ポスター(壁新聞)の作成 書き方の説明(1年)	
12月10日	発表準備	ポスター(壁新聞)の作成 書き方の説明(2年)	
12月17日	中間発表会 (ポスターで発表を行う)	1,2年合同の分野別で行う。 (講師をされた方々にも声をかける)	
1月	解決策を考える	課題に対する解決策を考える。 高校生として具体的にできることを考える。 中間発表を受けて,課題の設定を見直す必要も考える。	詳細は,3学期
2月	最終発表会		

【お願い】

①授業の時の生徒の持ち物

『課題研究メソッドStart Book』(探究の教材として使用)

ファイル

スマホ (Boxの鍵を総探前に開けてください)

『課題研究メソッドStart Book』のデータ

R2年度＞校務分掌＞進路指導部＞総合学習係＞MethodSB(A)＞MethodSB_Date

②各授業の最後に活動の内容と感想を書かせて,ファイルごと回収してください。(用紙は配布済み)

中間発表におけるポスター(壁新聞)の内容(詳細は10月中にお知らせします)

班ごとのテーマ

テーマを選んだ理由

調査の内容

調査の結果

地域の課題(「問い」)

※図や表を必ず1つはポスターに取り入れる。

大口高校の各教科の取組事例

国　語　科の取組

・　教材の要約，自身の考察を文章にまとめる活動
・　発問回答や感想，考察を周りと共有する活動
・　地域の俳句や標語コンクールへの参加

成果等

・　日常的な振り返りによる言語能力の育成
・　他者との感想比較の増加や情報活用能力の育成
・　気づきや表現力，感性の豊かさや発想の面白さ

数　学　科の取組

・ 日常生活と数学を結びつける
・ 発表，小テストの回数を増やす（アウトプットの増加）

成果等

・　問題発見と解決能力の育成
・　生徒どうしが教え合いながら学習に取り組むことが増えた
・　積極的に人前で発表する生徒が多くなった

地歴・公民　科の取組

・　ICTの活用，資料の活用情報収集と分析，他者との意見共有，意見発表（様々な資料から当時の社会情勢や課題を読み取り，考察し，まとめを発表）

成果等

・　自分で問題を発見していくようになった
・　内容（言語）を読み取る能力の育成
・　レポート作成のための創意工夫

令和２年１２月14日「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」に係る公開授業(地理Ｂ)について～大口高校ブログより

ICTを活用した授業で，生徒は自分のスマートフォンを持参して授業を受け，各端末に送られる問いに対する答えを話し合って入力し，送信していました。日本各地の衣食住についての話題では，味噌や醤油の甘さの違いや，家の建築様式の違いなど，生徒たちが生き生きとした表情で話し合っている様子が見られました。

令和２年１２月実施のカリキュラム・マネジメントに関する地理Ｂの公開研究授業の指導案の一部抜粋

４　指導観

今回の授業の研究概要には，教科等の探究的な取組を通して，学習の基盤となる，言語能力，問題・解決能力，情報活用能力を育成することが盛り込まれている。本授業ではこのような能力を育成するための発問を取り入れながら，授業を展開していきたいと考える。

(2)　本時の展開

段階	学習活動・学習内容	指導上の留意点	【評価規準】 資質・能力の育成
導入 ５分	1　世界の衣食住の特徴を振り返る。 ・　国や地域によって異なる衣食住の特徴	これまで学習した内容を復習させる。（パワーポイント活用）	【知識及び技能】 言語能力の育成
展開Ⅰ 20分	《本時の学習課題》 日本各地の衣食住を比較し，それぞれの特徴や地域による違いについて考えよう。		
	2　日本各地の衣食住の特徴を具体的に挙げ，その内容や違いについて説明する。 ・　各地における衣食住の特徴や生活習慣の違いなど。	日本各地の衣食住の違いを具体的に挙げて，文章で表現させる。(classi アンケート活用) 自分が挙げた衣食住の違いについて，他者と共有させる。(classi アンケート活用)	【思考・判断・表現】 言語能力の育成 問題発見・開発能力の育成
	3　日本各地の衣食住の特徴を他者と共有し，その内容を地図に表現する。	日本各地の衣食住の特徴を地図に表現させ，読み取れることを考察させる。（ワークシート活用）	【主体的に学習に取り組む態度】 情報活用能力の育成
	4　日本各地の衣食住の特徴には，自然環境や社会環境によって違いが生じることを理解する。	日本の自然環境や社会環境の違いによって，各地に地域性が生まれたことを理解させる。	【知識及び技能】 問題発見・開発能力の育成
展開Ⅱ 20分	5　衣食住の画一化が進む現状について考察する。 ・　海外からもたらされた衣食住の画一化 ・　国内に広がる衣食住の画一化	衣食住の画一化が具体的にどのように進んでいるか考察させる。（classi アンケート活用）	【思考・判断・表現】 言語能力の育成 情報活用能力の育成
	6　衣食住の画一化が進む一方，日本の伝統文化や現代文化が海外から注目されていることを理解する。 ・　和食や和服などの伝統文化 ・　アニメやゲームなどの現代文化	日本の伝統文化や現代文化の中には，海外から注目されているものや，海外に積極的に発信しているものがあることを理解させる。(classi アンケート＆ワークシート活用)	【知識及び技能】 問題発見・開発能力の育成
	7　今後日本から世界に発信できる文化にはどのようなものがあるか考察する。	衣食住をはじめ，芸術や伝統芸能など，幅広く具体的な内容を考察させ，他者と共有させる。	【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 情報活用能力の育成
まとめ ５分	8　本時のまとめ	これまでの授業を振り返り，まとめる。	

大口高校の各教科の取組事例

理　科　の取組

- 言語活動の増加
- 全生徒に発表の機会
- 問題演習の分担
- ポスター発表の個人・グループの入れ替え

成果等

- プレゼンテーション，言語活動能力の上達
- 協力して課題に取り組むことがうまくなった

保健体育　科の取組

- 主体性を重視した実技
- 自分の体の使い方や動きを意識させる
（自分の体力や記録データの有効活用）

成果等

- 球技の戦術を自分たちで考え，ルール変更等を生徒自身が考え調整していく
- 自分に合った長距離のペース配分などをより詳細に考えられる

英　語　科の取組

- ペアワークやグループ活動を通しての協働学習
- 自分の考えや意見を書く活動，話す活動を継続的に行う

成果等

- 自分の考えを伝えることの苦手意識が減少
- 自分の言考えをまとめようとする言語能力の育成

家庭・芸術　科の取組

- 既習内容の振り返り
（実習の課題としての工夫）
- コンクール等への応募
- 発問の工夫
（一つの回答を求めるものではない）

成果等

- 課題解決へ向けた各自の取組（家族の食物課題に対する自宅における取組等）
- 積極的な実習へつながる
- 自分の考えを持ち，発表しやすくなる

カリキュラム・マネジメントへの取組がどのような効果をもたらしたか

生徒の主体性の伸長

・　主体的な学習への取組
・　主体的な活動
　体育祭や文化祭中止に伴う代替行事の提案・企画等
　→生徒会を中心に主体的な取組を行った

表現力・伝達力

・　自分の考えを相手に述べることができる
　（表現しようとする意欲の増加，抵抗感の減少）
・　授業で積極的に発表する生徒が多くなった

協調性・協働力

・　協力して課題に取り組む姿勢が育った
・　生徒同士が教え合いながら学習に取り組む姿が多く見られた

自己の考えを持てる生徒

・　自分の住む地域を意識して振り返る
　→自分のことを振り返る
　→自分の考えを持つ生徒の増加

情報活用と創意工夫の伸長

・　情報を活用して，取捨選択する能力が育成された
・　自身の興味関心に沿って研究を進められたこと
　→探究学習を楽しむ
　→研究に創意工夫

教師間の連携・授業改善

・　目標とする生徒像を教師間で共有できた
・　意識して授業改善をすることへつながった

担当者や各教科が，カリキュラム・マネジメントに取り組んだ際に工夫したことや，苦労したこと，今後の課題など

教科指導の課題等

生　徒

- ○　自分の意見を発信できる生徒と自ら考えずに答えを待つ生徒の差
- ○　モチベーションの低い生徒への対応
- ○　生活体験がすくない→小中学校での実技が定着していない

授　業

- ○　考えさせる時間を十分にとれなかった（進度との関係から）
- ○　発問の工夫，日常的に考えさせる継続性が大切
- ○　本年度はペアワークやグループワークを制限した（感染症対策のため）
- ○　調査研究内容の能力を各教科でどのように評価していくか（評価法）
- ○　教科横断的な指導が時間割の調整等を含め，積極的にできなかった。

その他

- ○　ICTの活用能力の差（職員・生徒共に）

令和３年３月４日総合的な探究の時間「最終発表会」について
～大口高校ブログより

１，２年生が24班に分かれて，「地域活性化活動」をテーマに地域の課題を掘り起こし，どんな解決策があるか市役所や様々な団体へ協力を仰ぎ，各班ごとにまとめたものを発表しました。
高校生らしい柔軟な発想で，地域の課題を解決する策が次々と発表されました。
講師としてお招きした，市役所や美容室，鹿児島大学の方から高い評価をいただきました！

管理職の所見：カリキュラム・マネジメントを進める際に，工夫したことや，苦労したこと，今後の課題など

・　早い時期に校内研修が必要であった
　「カリキュラム・マネジメント」とはどういうことかを全職員に具体的に理解させる必要があった。取組の開始時期が遅れた感がある。

・　本年度は地域活動や各授業での活動的な取組が感染症予防対策のために思うようにできなかった。また，同じ取組をしている県外先進校の視察ができなかった。

・　校内検討委員会に各教科代表を入れる
　各教科の取組等が把握しやすかった。

・　「総合的な探究の時間」の課題研究取組では関係機関等の連携が必要であった。

・　伊佐市や地域の方々等に多大な協力をいただいた。

令和２年10月22日総合的な探究の時間について　～大口高校ブログより

　１・２年生は，総合的な探究の時間に「地域活性化」をテーマとした探究活動を行っています。
　10月22日（木）は，伊佐市役所から５人の職員の方々にお越しいただき，「伊佐市の医療と高齢者支援」「スポーツを通した仲間づくり」「都会から見た伊佐の子育て」「伊佐市の空き家対策」「曽木の滝の水資源活用」のテーマで，生徒たちに講話をしていただきました。
　今後も伊佐市と連携して活動を行っていきます。

実践校の先生方のコメント紹介

- 考え方や見方を変えるいいきっかけになった
- カリマネは取り組みやすいところからやってみるといい
- 大変そうだけどカリマネって面白いという感じに学校全体がなってきた
- カリマネの重点指導項目を定めてそれから取り組むのもあり
- シラバスに資質・能力を盛り込んだり，資質・能力ベースで授業について考えていくと，生徒と一緒にこういうことを勉強してみたい，そのために教科書を変えてみようと考えるようになった
- 目標となる生徒像を教員間で共有することができた
- 必然的に授業改善につながった
- ＩＣＴの活用に関して，スマホの利用を含めて先生方が柔軟に考えられるようになった
- 教科横断的な取組がわかるようになってくるにしたがって，やってみたいという先生方が増えてきた

本課がカリキュラム・マネジメントに関して行った過去の研修の紹介

高大接続改革セミナー
令和元年11月15日（金）

岡山県立林野高校前校長の三浦隆志氏による講演「これからの学校教育に求められること～カリキュラム・マネジメントを通じて、自校の「学校教育デザイン」を描く～」等を実施

◎主な内容
- ・グランドデザイン
- ・授業評価アンケート
- ・単元デザインシート
- ・ポートフォリオ評価
- ・ＩＣＥモデル
- ・ルーブリック評価　　等

キャリア・デザインセミナー
令和２年11月13日（金）

大分県立大分雄城台高等学校の堤教頭先生の講演「本校で育みたい持続可能な社会の構築に必要な資質・能力の育成に向けた取組について」等を実施

◎主な内容
- ・単元配列表の作成
- ・資質・能力でつなぐ単元配列表
- ・単元デザインシート
- ・単元を資質・能力ベースで設定した年間指導計画の作成　　等

4　実践報告 (3) 鹿児島県立屋久島高等学校

テーマ「現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究」

学校教育目標

日本国憲法，教育基本法の精神並びに県教育行政の施策に則って，生命と人権を尊重し，平和と自由を愛し，個性豊かに国際社会を逞しく生き抜く21世紀を担うに相応しい人材の育成を目標とする。

見直しのプロセス

○　育成を目指す資質・能力の具体化と教科への反映に向けて

（1）　カリマネ推進委員会で原案を作成し，職員会議で提案するとした。

（2）　カリマネとはどういうものなのかという原点に戻った。

（3）　文部科学省や学習指導要領，関連書籍等の文献を収集した。

（4）　生徒や保護者，学校関係者評価委員に育成を目指す資質・能力の設定に関わっていただくことを前提に，本校の各教育活動の目標を基に育成を目指す資質・能力の具体的な設定を試みた。

（5）　グランドデザインの抜本的な見直しをした。

（6）　育成を目指す資質・能力用のルーブリック評価表を作成し，それを基に各教室で活用できるようにアイコンを作成，また各教科で利用できるルーブリック評価表の様式を作成した。

カリキュラム・マネジメントによって生まれた全体像

【1 課題発見・解決力】【2 思考力】【3 説明力】【4 人間関係形成力】
【5 自己評価力】【6 キャリアプランニング能力】【7 社会参画力】【8 創造力】

（1）　本校の各教育活動の目標を関連項目ごとに確認した。

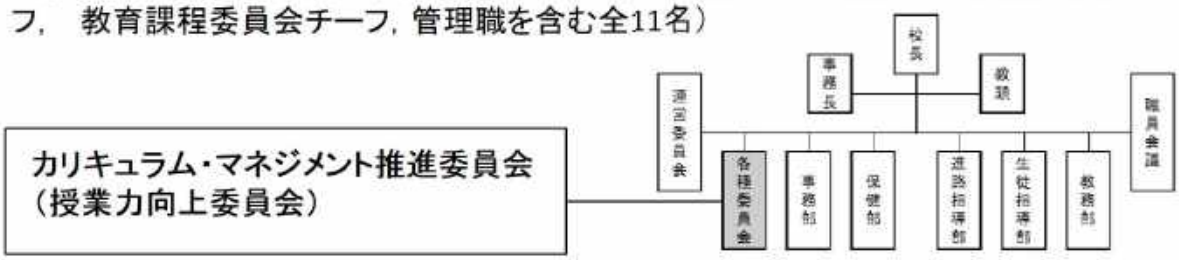
① 学習指導要領　② 総合的な探究の時間
③ 環境総合・屋久島環境ゼミナール
④ 課題研究　⑤ キャリア教育　⑥ 道徳教育

（2）　国立教育政策研究所による資質・能力の3つ分類（基礎，思考，実践）を参考に，本校の各教育活動で目標として示されている資質・能力を並べ，整理した。

（3）　結果として8つのまとまりができ，学校全体で掲げる資質・能力として設定した。

カリキュラム・マネジメントの体制（組織図）

○　本校既存の委員会である授業力向上委員会を核とし，カリキュラム・マネジメント推進委員会を立ち上げた。委員には推進に必要な各チーフが教科の代表を兼ねる形式をとった。
（本委員会チーフ（進路主任），環境コース主任（教務主任），総探チーフ，課題研究チーフ，　教育課程委員会チーフ，管理職を含む全11名）



年間のカリキュラム・マネジメント　スケジュール

【令和元年度末】

2月5日～7日　先進校視察
① 佐賀県立佐賀西高等学校　② 広島県立松永高等学校
③ 広島県立尾道北高等学校　④ 広島県立広高等学校

【令和2年度】

10月16日　第1回カリキュラム・マネジメント検討会議
2月22日　第2回カリキュラム・マネジメント検討会議

（校内）
11月16日　第1回委員会【カリマネ全体】

11月25日　第2回委員会【育成を目指す資質・能力の位置】

12月 7日　第3回委員会【学習評価】

12月21日　第4回委員会【学校全体で育成を目指す資質・能力の設定】

1月 7日　運営委員会
職員会議　【学校全体で育成を目指す資質・能力の提案】

2月 1日　第5回委員会【(1)グランドデザイン改良案 (2)ルーブリック評価表様式案 (3)資質・能力アイコンの作成】

2月10日　第6回委員会【(1)グランドデザイン改良案2 (2)ルーブリック評価表案 (3)資質・能力アイコン案】

2月24日　第7回委員会【(1)各教科のルーブリック評価表様式 (2)資質・能力アイコン (3)今後の確認】

屋久島高校の具体的取組

環境コース

環境コースの目標

1　屋久島地域の研究をとおして，自ら学ぶ態度や地域に積極的に関わる姿勢を身につけさせる。
2　自らを取り巻く環境と人との関わりを学ぶなかで，持続可能な社会形成のための実践的能力や態度を身につけさせる。

カリキュラム，現状等

「世界自然遺産屋久島」の自然・文化を基盤に置いた宿泊学習等を行う「環境総合」や研究調査や発表に関わる技能習得も目標としている「屋久島ゼミナール」を設定。自然科学系だけではなく，社会系の専門科目を履修している。AO入試や推薦入試等を活用し，自ら学び地域に積極的にかかわる姿勢や研究実績を生かした進路実現を目指している。

具体的な取組①
研究の手法やワードを用いた論文のまとめ方やパワーポイントでの発表の手法を学ぶ。

具体的な取組②
研究の計画を立て，研究計画発表会を設定し，計画を説明する。

具体的な取組③
外部講師の講義によって屋久島の地域や社会の構成，歴史，自然について学ぶ。

具体的な取組④
宿泊学習をとおして，一つ一つの事象について深く学び，説明する手法を学ぶ。

具体的な取組⑤
研究をまとめ，中間発表をとおして研究の修正を行い，最終発表を行う。

具体的な取組⑥
最終論文をまとめて，冊子にして，研究成果を地域に還元する。

どのような成果があったか

自分たちの生活している地元について深く学び，地域の諸課題に気づき，今後どのように解決していくことができるかを考える姿勢が見られるようになってきている。また，自分の考えをまとめ発表することで，どのようにすると相手に伝えることができるかを考えるようになった。

屋久島高校の具体的取組

普通科全体

普通科の目標

個性を重んじ，進路意識を涵養しつつ，それぞれの資質や能力を最大に高め，地域や社会の期待に応える人材の育成に努める。

カリキュラム，現状等

基礎学力の向上や定着に力を入れ，目的意識を持つことで学習意欲を高める工夫を行っている。また，宅習など自ら学ぶ態度を育成している。

環境コースの取組（地域研究）との連携とその影響

総合的な探究の時間に探究活動を導入するにあたり，研究を効果的に進める手法について，手法の学習→計画発表→研究→発表という流れを環境コースの取組を参考にした。個々に応じた研究を進めることで，積極的に取り組むことができている。

教育目標の達成にどのような成果があったか

個々の進路に対応した研究を行うことで，進路目標を明確にすることができた。

また，課題発見から解決への道筋を学び，自ら積極的に取り組む姿勢が見られるようになってきた。

情報ビジネス科

情報ビジネス科の目標

商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ，ビジネスの意義や役割について理解させる。

また，ビジネスの諸活動を主体的，合理的に，かつ倫理観をもって行い，経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

カリキュラム，現状等

各種検定による資格取得など目標を持たせ努力する姿勢を育成している。また，課題研究等をとおして地域の課題に目を向け解決する態度の育成に努めている。

環境コースの取組（地域貢献）との連携とその影響

課題研究をすすめるにあたり地域の課題に取り組むため地域企業との連携が必要となった。その際に，環境コースが研修している研修センターのインストラクターから助言をいただくことで，連携をスムーズに行うことができ充実した課題研究を行うことができた。

教育目標の達成にどのような成果があったか

地域の方々との話し合いで地域の課題を明らかにし，自分たちで取り組むことのできることを考え実践した。その結果，どのように地域が変化していくかを体感し，ビジネスの役割について学ぶことができた。

屋久島高校の教育活動に関する補足説明

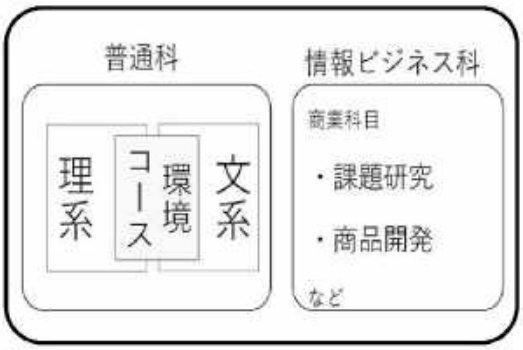
【環境コースについて①】

屋久島高校は普通科と情報ビジネス科の２つの学科があり，さらに普通科には理系・文系コースと教育課程の異なる環境コースがある。

この環境コースの教育課程には，学校設定科目として２年次に環境総合（２単位），３年次に屋久島環境ゼミナール（３単位）があり，理科４人，地歴公民科１人，家庭科１人の計６人の職員で担当している。年間計画に従って，全国高校生自然環境サミットの開催運営に携わったり，２年次に年４回の宿泊研修や年２回の郷土料理実習を行ったりするなど，教育課程が学校の経営目標や生徒・地域の実態を踏まえた教科横断的な活動もできるものになっている。

屋久島高校環境コース

○ 普通科（文系・理系）
　総合的な探究の時間
　「黒潮キャンパス」
○ 普通科（環境コース）
　総合的な探究の時間
　＋
　環境総合（2年次　2単位）
　屋久島環境ゼミナール（3年　3単位）



理科，地歴公民科，家庭科の6人で担当
→ 教科横断的な視点

一年間の流れ（2年次）
7月　宿泊研修（生物分野）
8月　高校生自然環境サミット参加
10月　宿泊研修（地学分野）
11月　課題研究発表会
1月　宿泊研修（社会分野）
1･2月　郷土料理実習（家庭科分野）
3月　野外活動実習

郷土料理実習
（普通科環境コース）

【普通科（環境コース）の取組～伝統文化の学習と継承】
屋久島民謡「まつばんだ」の研究
↓
自然な形ですべての町民に普及し浸透できないか
↓
11月1日から防災行政無線の17時の時報に採用

屋久島高校の教育活動に関する補足説明

【環境コースについて②】

口永良部島実習 ～環境コース～　　～ 屋久島高校ブログより

環境コース12人は，８月28日（金）～30日（日）の２泊３日で口永良部島実習を行いました。台風９号の影響で１日短い日程になりましたが，予定していた実習を全て行うことができました。

１日目は火山災害学習や新村見学，西之浜での海岸清掃活動，夜に天然記念物のエラブオオコウモリの観察を行いました。２日目の午前は慶應義塾大学と郁文館グローバル高校との海洋ゴミについてのオンライン会議，午後は林床での実習（保護柵つくり，ツルランの本数調査，シカの調査のためのベースつくり）を行い，３日目の朝に実習の振り返りをして帰ってきました。

環境コースと普通科，情報ビジネス科の連携について

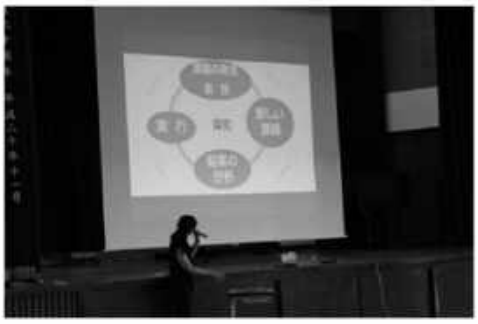
これまで環境コースの生徒が課題研究発表を文化祭で行ってきたことに加え，普通科の生徒が総合的な探究の時間で課題研究に取り組む際に受ける説明を，情報ビジネス科の生徒も一緒に聞き，商業科目の「商品開発」や「課題研究」にいかしている。

例えば，「商品開発」の授業で，情報ビジネス科の３年生が『屋久高発！！屋久島お助け隊』と銘打って，地元の商店とコラボして高校生のアイデアを取り入れた商品を開発したり，地元の商店をTwitterで紹介したりするなど，地域も加わって，生徒が何事にも主体的に取り組み，学びを深められるよう学校全体で支援を行っている。

普通科の発表を情報ビジネス科の生徒も見学（カリマネの視点からの変化）

⇩

課題研究の進め方を**学校全体で共有し**，「現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成」を学校全体で進めている。



担当者や各教科において，取り組んだ際に工夫したことや，苦労したこと，今後の課題など

【苦労したこと】
（１） カリマネとは何かということを学校全体で共通理解する機会を設定すること。
（２） 委員とそうでない職員との間の意識の差を埋めること。
（３） 学校として掲げる育成を目指す資質・能力を設定する方法（その過程において，いかに主観を入れないようにするか）。
（４） 設定する資質・能力の評価方法の設定の仕方。

【工夫したこと】
（１） 校内研修等の代わりとして，または委員会だけの取り組みとならないようにするために，校務メールで全職員へ情報を提供したり，共有したりした。
（２） 委員会の開催は校内行事の制約を受けたので，校務メールで委員会資料の案の提示や，予定の確認等あらかじめ行い，委員会が効率的で有効な時間になるようにした。
（３） 先進校の例や文献等から参考資料を委員会で共有し，常に全体像を見誤らないようにした。
（４） 設定する資質・能力には，それぞれ内容を定義する文章を用意して，職員や生徒へ資質・能力の名称のみの抽象的な提示にならないようにした。
（５） 設定する資質・能力にはそれぞれアイコンを用意し，各教室に設けることで，授業時に活用できるようにした。
（６） 設定する資質・能力にはそれぞれルーブリック評価表で達成度が確認できるようにした。また，各教科のルーブリック評価表と様式を統合することで，各教科（授業者）が活用しやすいように準備した。

【今後の課題・予定】
（１） グランドデザインを介して，生徒（保護者）や地域との本校の教育目標の共有化。
（２） 外部機関との連携の強化と充実。
（３） 学科（コース）ごとの学校行事の横断的な視点での編成。
（４） 設定する資質・能力をもとにして，キャリア・パスポートの内容変更と充実。
（５） 設定する資質・能力をもとにして，校内各行事ごとの感想文用紙等の様式変更と充実。

管理職の所見：カリキュラム・マネジメントを進める際に，工夫したことや，苦労したこと，今後の課題など

【工夫したこと，苦労したこと】

（1）「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」の実践校に指定されて以降，管理職（教頭）を中心に検討を進めてきたが，令和2年度第1回カリキュラム・マネジメント検討会議後，「カリキュラム・マネジメント推進委員会」を立ち上げたこと。

（2）「カリキュラム・マネジメント推進委員会」は既存の委員会である「授業力向上委員会」を核とし，委員には推進に必要な各チーフが教科の代表を兼ねる形式をとったこと。

その結果，「キャリア・パスポート」の《高校生活でさらに伸ばしてほしい能力》も関連して検討することができた。（当初，教育課程委員会を担当に考えていたが，令和4年度に向けた教育課程の編成・調整に専念してもらうことにした。）

（3）「カリキュラム・マネジメント推進委員会」に教頭も加わり，第1回検討会議での検討委員からの指導助言を伝えるとともに，本校の課題を明確にしたこと。

【今後の課題など】

（1）教育活動におけるPDCAサイクルをどのように確立していくか。

これまでの教育活動をどのようにCheckし，次年度に向けてどのようにActionしていくか。

（2）外部機関との更なる連携をどう図るか。

カリキュラム・マネジメントの効果的な実践として総合的な探究の時間の活用があるが，生徒が主体的な活動を深めるためにフィールドワークを行ったりする。その際，地域など校外との連携やアポイントメントを取る際の学校側のサポートも重要になってくる。屋久島には，環境省や林野庁が管轄する国の機関や屋久島環境文化研修センターなどの公共機関などがあり，本校の教育活動を行う上で非常に連携が取りやすい環境にある。さらに連携を深めていきたい。

前任校では，生徒が関係機関に課題研究の調査研究を行うためのアポイントメントを取る際，事前に担当教諭から連絡したり，管理職から依頼公文を提出したりする場合もあり，生徒も学校側も日程調整等に支障が出たり，時間がかかったりすることもあった。

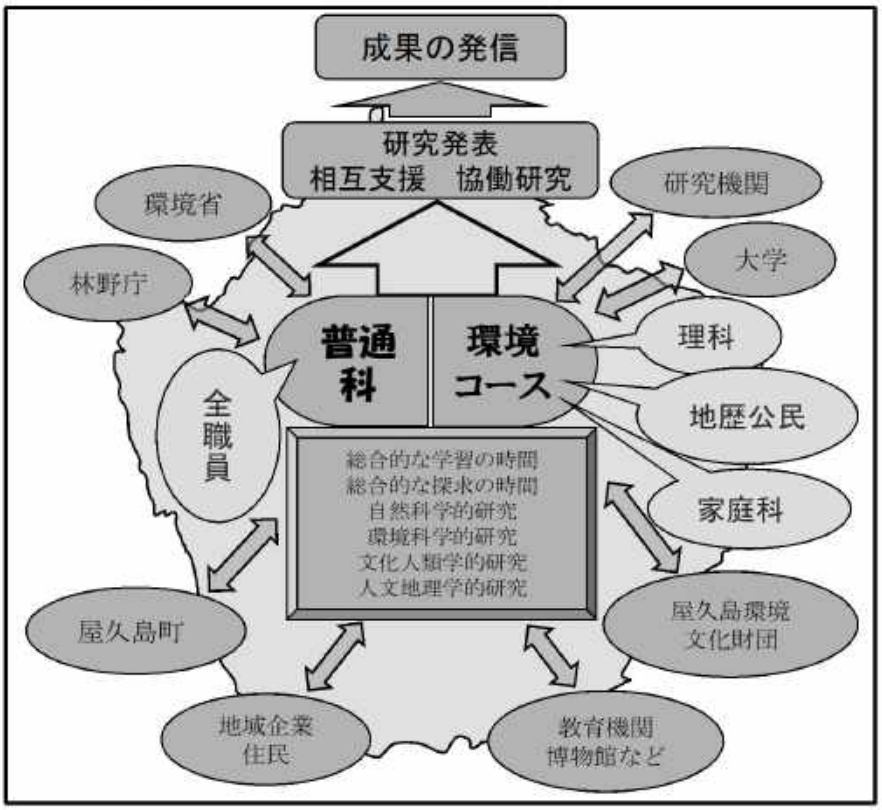
（3）教育活動を進路実績にどうつなげるか。

（4）教育活動を生徒募集にどうつなげるか。

総合的な探究の時間最終発表（普通科）

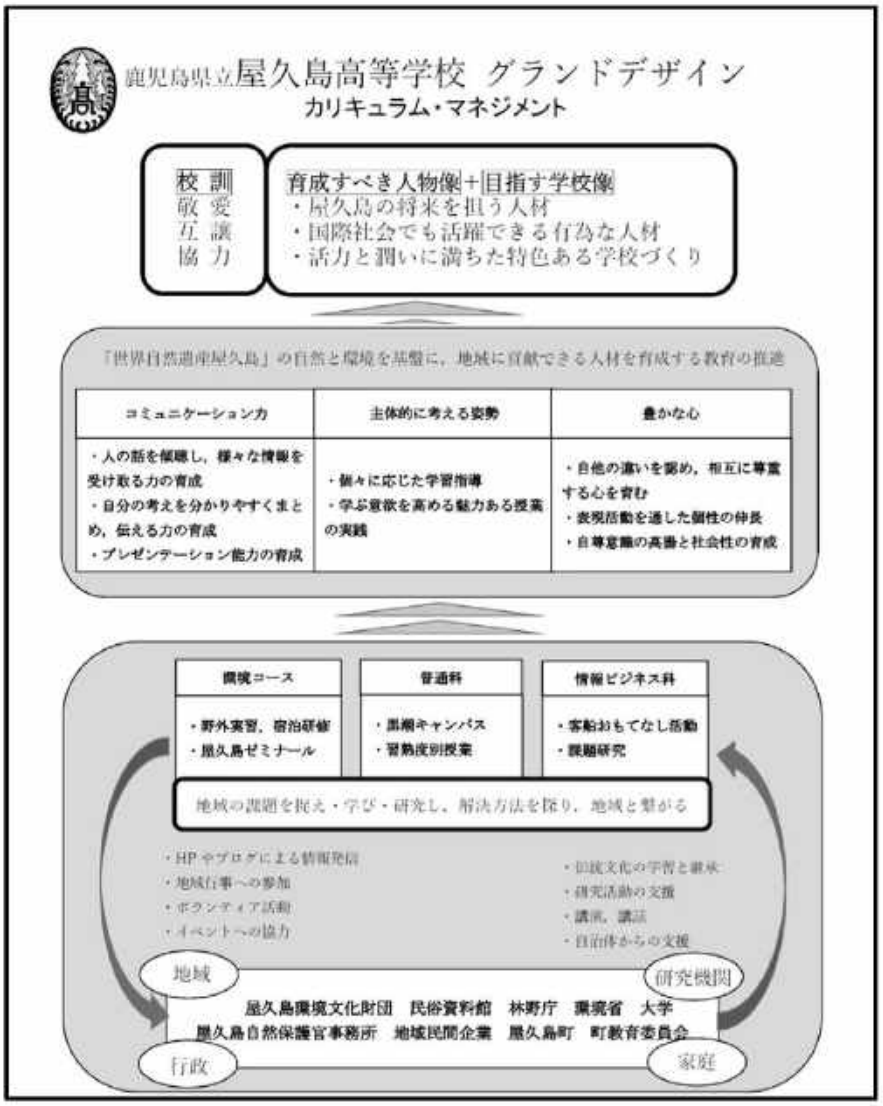
課題研究最終発表（情報ビジネス科）

グランドデザイン見直しの流れ



令和元年度当初

普通科の環境コースの取組を中心に，教科横断的な取組や地域や関係機関との連携を示している



令和元年度後半

環境コース，普通科，情報ビジネス科の取組を併記することで学校全体のつながりを示すとともに，地域や関係機関との連携を示している

令和２年度後半

教育活動の循環を，恵みをもたらす雨で表現している。育成を目指す８つの資質・能力が高まり，教育目標が満たされて雨となり生徒へ降り注いでいる。

育成を目指す資質・能力を屋久島の山々に見立てて，教育目標を目指すことを表現している。また，屋久島の地形は教育活動の場を表現している。

教育活動の基盤となる様々な取組や外部との連携を土台として表現している。

資質・能力　説明文

【① 課題発見・解決力】

身の周りにある事柄に対し，好奇心から調査や研究を重ねることで，その因果関係をつきとめようとしたり，課題や問題を解決しようとしたりする能力。他者と協力することや，情報を収集，活用することを含む。

【② 思考力】

論理的，批判的な姿勢や態度で考える能力。

論理的とは，感情や経験則のみに基づくものではなく，事実や根拠となるものを基に物事を関連付けたり，区別したりしながら段階的に順序に沿って一貫した考えを持てること。

批判的とは，提示されたり，与えられたりする情報を即座に鵜呑みにすることなく，事実や根拠を付き合わせることで，より確信度の高い，より信憑性の高い，より良いものを得ようと考えられること。

【③ 説明力】

手元にそろえた情報を相手に分かりやすく伝える能力。伝える順番，分量，時間，方法や利用する道具を計画したり，相手（集団）の年齢，性別，文化，等々を考慮したりすることができることを含む。

【④ 人間関係形成力】

他者と有益で良好な関係を築くために，自分の意見を丁寧に説明したり，相手への尊敬を示したり，周囲への配慮を施したりできる能力。また，そうすることで，新しい組織や社会に加わろうとする能力。さらに，他者と他者を繋いで，新しい関係や組織を形成しようとする姿勢や態度。

【⑤ 自己評価力】

計画した目標に対して，しばらくした後に客観的に自己評価する姿勢や態度。また，その評価をもとに目標を設定し直したり，次の新たな目標を設定したり，目標達成のために必要な事柄を取り入れたり，準備したりできる能力。

【⑥ キャリアプランニング能力】

様々な活動を通して，将来のための勤労意欲を養い，将来設計を行うことで，現在の自分に足りないものや必要なもの，自分の得意とする事柄，向いている事柄などを分析し，中期，長期的な視点で成長できるように計画を立てられる能力。

【⑦ 社会参画力】

個々で有する財産（能力・知識・体力・時間等）を個人のためにだけではなく，地域社会の発展や，地域社会への貢献のために，他者のものとつなげ合わせたり，他者と同時に活用（発揮）したりする能力。個々ではうみ出せない力を求めようとするもの。

【⑧ 創造力】

手元の活用できるものをもとに，これまでの固定概念にとらわれることなく，周囲に配慮しながらも，様式（時間・場所・順番等々）に変更を加えることや，新たな考えや方向性・可能性を創り出すことで，周囲に多くの利益をもたらそうとする能力。

屋久島高等学校　身につけたい資質・能力　ルーブリック評価表

資質・能力	現在の自己評価	1	2	3	4
【1】 課題発見・解決力		課題を発見することができない。	課題を発見することができるが，その課題を解決するために調査や研究の計画が立てられていない。	課題を発見することができ，解決のための調査や研究を重ねられている。	課題を発見することができ，解決のための調査や研究を重ね，その課題を解決することができる。またその手法を他に活用できる。
【2】 思考力		疑問や課題に対して事実や根拠を基に考えることができない。	疑問や課題に対して事実や根拠が不十分であるため，考えることができない。	疑問や課題に対して事実や正確な根拠を基に考えることができる。	疑問や課題に対して事実や正確な根拠を基に考え，物事を関連付けることができる。
【3】 説明力		手元にある情報を伝えるための，順番，分量，時間，方法を計画することができない。	手元にある情報を伝えるための，順番，分量，時間，方法を計画することができるが，改善の余地がある。	手元にある情報を伝えるための，順番，分量，時間，方法を計画し，計画通りに説明することができる。	手元にある情報を伝えるための，順番，分量，時間，方法を計画し，説明することができる。その説明には聞き手の様々な状況を考慮し工夫を加えている。
【4】 人間関係形成力		多様な他者の考えや立場を理解しようとせず，自分の考えを正確に伝えることができない。	多様な他者の考えや立場は理解できるが，相手の意見を聞くのみで自分の考えを正確に伝えることができない。	多様な他者の考えや立場を理解し，相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができ，良好な人間関係を築くことができる。	多様な他者の考えや立場を理解し，相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができ，良好な人間関係をもとに新たな活動を興すことができる。
【5】 自己評価力		自身で計画した目標に対して自己評価を行うことができていない。	自身で計画した目標に対して自己評価を行うことができているが，新たな目標が設定されていない。	自身で計画した目標に対する自己評価を行い，その評価をもとに新たな目標が設定されている。	自己評価を踏まえた新たな目標が設定され，具体的な解決策や方法まで計画されている。
【6】 キャリアプランニング能力		様々な活動を通して，自己分析を行う事ができていない。	様々な活動を通して，自己分析はできているが，目標の設定や課題発見をすることができていない。	様々な活動を通して自己分析し，自己実現のための目標の設定や課題発見をすることができる。	様々な活動を通して自己分析し，生涯の生活設計を行い，自己実現のための目標の設定や課題発見をすることができる。
【7】 社会参画力		地域社会の発展や貢献の為に現状や課題を理解できていない，または理解しようとしていない。	地域社会の発展や貢献の為に現状や課題を理解できているが，個々で有する財産を活用するまで結びつけられない。	地域社会の発展や貢献の為に現状や課題を理解し，個々で有する財産を活用しながら，地域の課題解決に取り組んでいる。	地域社会の発展や貢献の為に現状や課題を理解し，個々で有する財産を活用する中で，自らのアイデアや資料を提案し，企業や自治体と連携しながら地域の課題解決に取り組んでいる。
【8】 創造力		課題に対して自分で考え，アイデアや作品を生み出そうとする姿勢がない。	自分で考えようとしているが，既存の発想や方法の中で考えることが多く，新しい発想が少ない。	既存の発想や方法にとらわれず，新しい発想で物事を考えることができている。	既存の発想や方法にとらわれず，新しい発想でよりよいものを生み出し，活用することができている。

【　　】科　ルーブリック評価表　　【1単元 ／ 1学期 ／ 2学期 ／ 3学期 ／ 年間】用

想定案

（　）年（　）組（　）番　（　　）

		資質・能力	現在の自己評価	1	2	3	4
教科の3観点	【1】	知識・技能					
	【2】	思考力・表現力・判断力					
	【3】	主体性（協働性・多様性）					
能力から選択・GD上の資質・	【4】						
	【5】						

育成を目指す資質・能力を示すアイコン

下記のアイコンをマグネットで黒板に掲示し、各授業において育成を指す資質・能力を明確化する予定

育成を目指す資質・能力　アイコン

育成を目指す資質・能力　アイコンの意味

【④ 人間関係形成力】 中央の自身が左側と新しい関係を築いたり、すでにある組織に右側の新しい人を加えようとしたりする様子。	【⑤ 自己評価力】 左の目盛りは評価の尺度。自己評価後、足りないものを求める様子。	【⑥ キャリアプランニング能力】 現在の勤労観や就労感を手前の名刺に、理想とする将来の自己を奥の名刺で表現。	【⑦ 社会参画力】 時計のネジ全体（社会）を回すために、それぞれの個々（小さいネジ）が力を合わせている様子（の一場面）。	【⑧ 創造力】 固定概念にとらわれないこと、様式の変化、新たな考えや方向性、可能性を等式に手を加えることで表現。
	【① 課題発見・解決力】 メガネが課題を発見する様子。レンズのキラリは解決した様子。	【② 思考力】 中央の長い矢印は一貫した自身の考え、左の直線は事実や根拠、右側の折れ線は鵜呑みにしない批判的態度。	【③ 説明力】 手元に準備した情報を説明する場面。	

発行　鹿児島県教育委員会

〒890-8577
鹿児島市鴨池新町10番1号
TEL　099-286-5291(代)